

Digital Cinema NOW

139

映画配給の動向

川上 一郎

さて、8月2日に米国司法省が70年前の反トラスト法を根拠にしたパラマウント合意書について、規制緩和の視点から見直しについて検討を開始すると発表した。図1には、この発表を受けてNATO(National Association of Theatre Owners: 米国映画館主組合)のWEBサイトでは10月4日までに映画興行当事者としての見解をNATOに寄せるように呼びかけている。この司法省の発表を受けてハリウッドのメディアは、70年前の合意内容についてどのような見直しが行われるのか注目している。このパラマウント合意締結に至る業界事情については早川書房から発行されている“ビッグ・ピクチャー”、エドワード・J・エフスタイン著・ISBN4-15-208700-5に詳細に記載されているので是非ご一読いただきたい。

そもそも、このパラマウント合意は、ハリウッドメジャースタジオによる映画興行業界への不当な支配を行っているとして1948年に訴訟が起こされ、その後11年にもわたる業界関係者を交えた審議の結果、ハリウッドによる映画興行チェーン経営からの撤退、封切り作とB級映画をパッケージ化した押しつけ配給契約の排除などを排除するParamount Consent(70年前はパラマウントがハリウッド最大のスタジオであったために映画制作業界代表としてパラマウント社経営陣が召還されたことにより、パラマウント合意書として呼ばれている)が締結され、現在の映画配給と興行の経営分離スタイルが70年にわたり行われている。

この訴訟が起こされるまでの米国映画市場は、ハリウッドスタジオによる直営映画

館が封切映画を独占上映する手法であり、都市部の一等地に立地した直営館が全米興行売上の4割以上を上げ、独立系映画館はスタジオ子会社が制作するB級映画を含めた10本パッケージでの配給契約を強要されていた。この訴訟提起時のハリウッドメジャースタジオはWikipedia(検索キーワード:“United States v. Paramount Pictures, Inc.”)によるとパラマウント、MGM、ワーナー・ブラザーズ、20世紀フォックス、RKOピクチャーズのビッグファイブとリトル・スリー(ユニバーサル・スタジオ、コロネリアピクチャーズ、ユナイテッドアーティスト)である。

この訴訟を受けて、ハリウッドメジャーによる映画興行チェーン経営からの撤退やパッケージ作品を含めパッケージ型作品配給契約の禁止などが行われた。しかし、その反面で直営館時代の映画作品レンタル料率が平均35%から50%に上昇したと前述のWikipedia記事には記載されているが現在は数週間興行した場合でもレンタル料率は60%と高騰している。また、この訴訟での審議中にテレビ放送が始まったことから、ハリウッドビジネスは大きく方向転換を迫られることになった。日本では、国鉄の急行停車駅には東映・東宝・松竹の直営映画館が林立し、お盆や正月は各社専属俳優陣総出演の映画作品で賑わっていたがテレビ放送開始時に専属俳優陣のテレビ出演ボイコットに始まる混乱があった。ハリウッドでは、テレビ放送開始時に映画作品のテレビ放送を認める代わりに映像制作はハリウッドが一手に引き受ける形で共存共栄を計り、現在のメディア conglomerate と称される映画制作・配給・放送・ケーブルテレビ・ネット配信・音楽・出版と全体を網羅する企業集合体として生き残りを

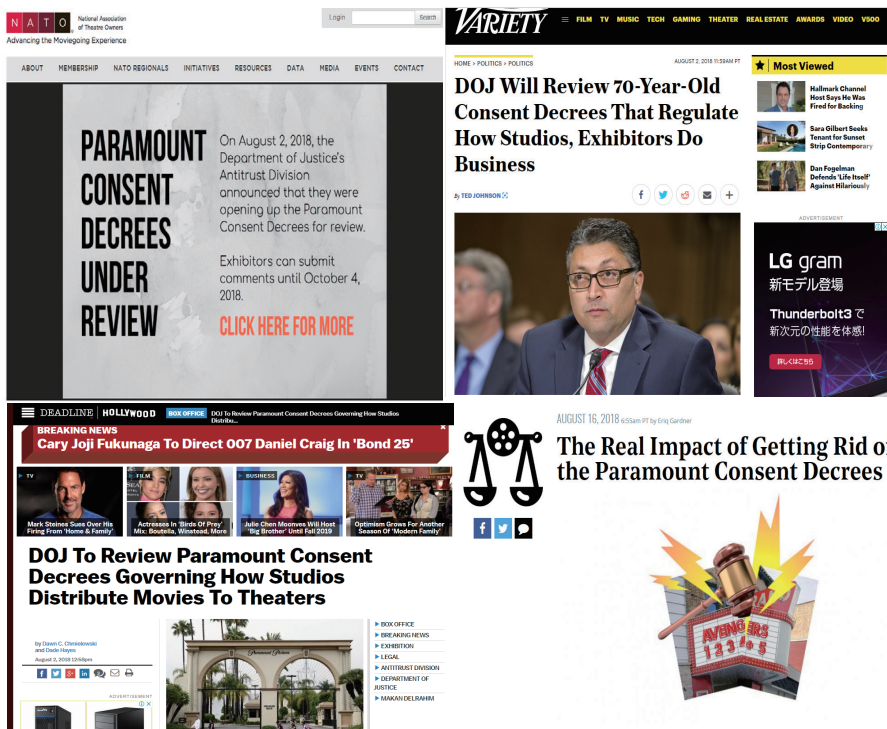


図1 70年の眠りから目覚めたパラマウント合意書再見直しを巡る話題

計っている。

先月もディズニーによる20世紀フォックスの買収が最終合意に達し、年明けには正式な合併契約締結となるが、この合併により新生ディズニーの映画興行売上シェアは40%を越え、さらに子会社化したアメリカンコミック最大のマーベルスタジオが映像制作権を多数売却していたのが20世紀フォックスであったことから、新生ディズニーはマーベルの人気コミックの大半を手中にし、ディズニーランドに代表されるリゾート部門や関連商品の肖像権収入を含めると713億ドルと報じられている20世紀フォックスの買収金額はお買い得と言える。特に、好調なリゾート部門にマーベルコミックの人気キャラが総動員できることはルーカスフィルム買収によるスターウォーズ関連キャラ導入効果との相乗効果がある。

また、通信系最大手のAT&Tによるワーナー・ブラザーズ買収は、同社が保有する6,000本を越える映画作品の著作権が大きな魅力となっていることは間違いなく、プレミアムVODを初めとした新作映画のネット配信による市場開拓や、以前の連載でも紹介した映画コンテンツの空間情報と連動した家庭でのVRエンターテインメントメタデータ構造の特許取得などを含めて精神的な新市場開拓を行っている。

一方で、今回の反トラスト法訴訟で筆頭となっていたパラマウント社はViacom傘下ではあるものの経営難の状態が続いており、中国との合併作品制作資金がショートしているとかの報道が続いていることは皮肉としか言いようが無い。

また、先月の連載記事でも紹介したが映画鑑賞においても定額見放題サービスが開始されており、先陣を切ったMoviePassは利用回数の制限などにより生き残りを模索しているが、映画興行チェーン最大のAMCが独自の定額映画鑑賞サービス“Stubs A*List”を開始し話題を呼んでいる。月額\$19.95の会費で、毎週3作品まで鑑賞でき、しかもIMAX・Dolby Cinema・RealD3Dも鑑賞できる。合わせて映画館売店での購入も10%割引となるなどのサービスもあることから着実に会員を増やしており、他の映画興行チェー

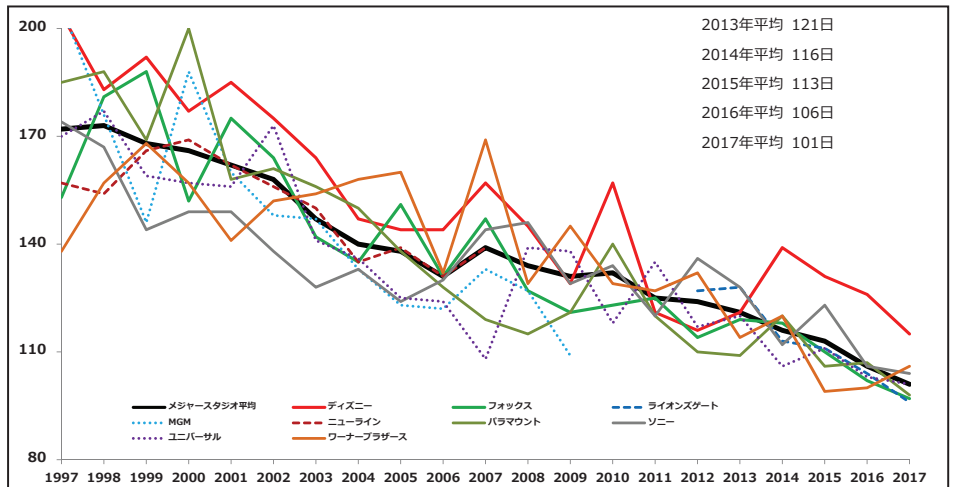


図2-1 ハリウッドメジャースタジオのDVDリリースウィンドウ推移
資料出所：NATO 26March2018

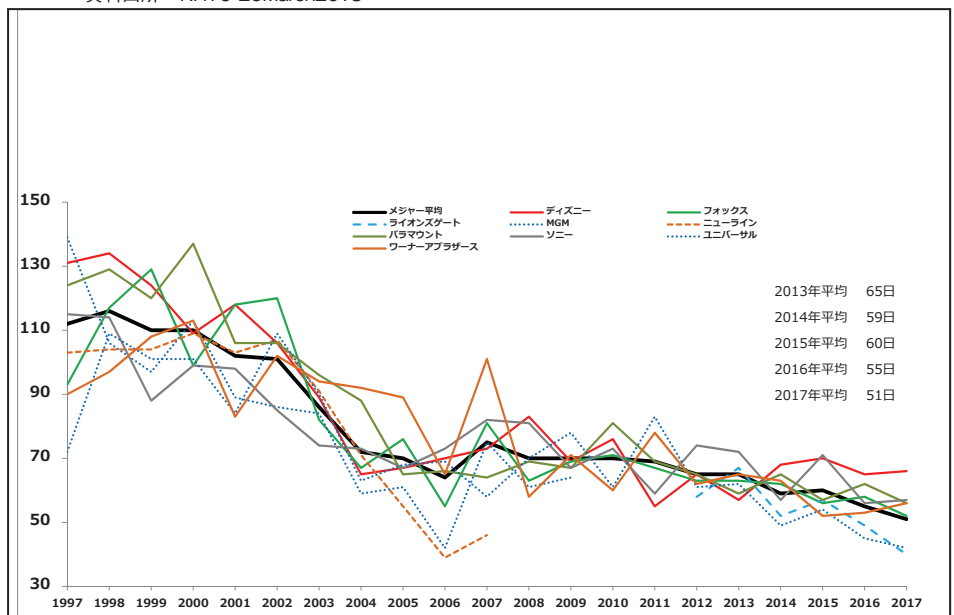


図2-2 ハリウッドメジャースタジオのDVDリリース予告推移
資料出所：NATO 26 March 2018

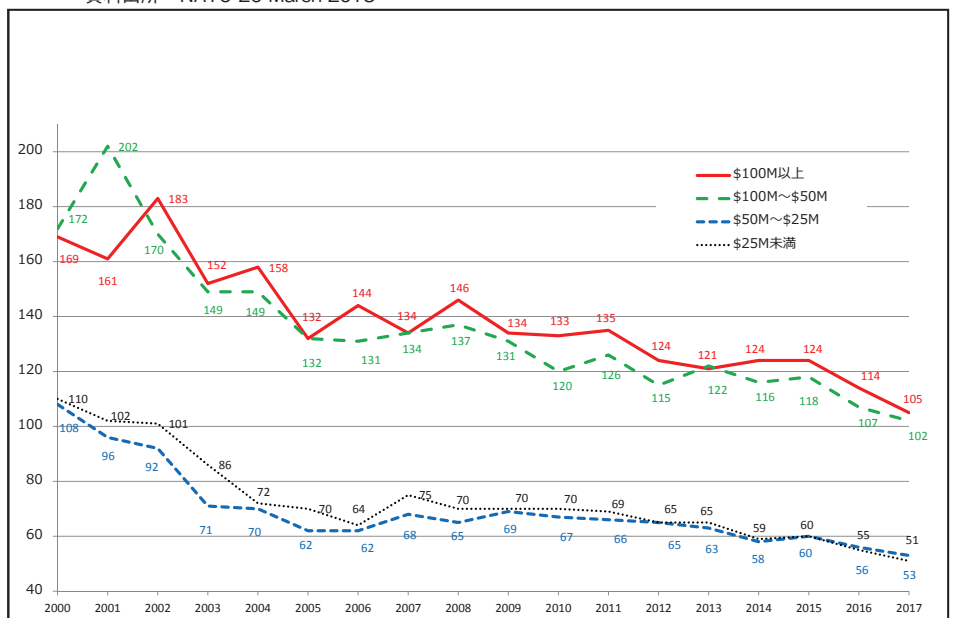


図3 興行収入別リリースウィンドウの推移

イズニーは4ヶ月と3ヶ月のリリーウィンドウ共に50%以上で、遵守率第二位がワーナー・ブラザーズ、第3位がライオンズゲートとなっている。遵守率ワーストスリーはユニバーサル・フォックス・パラマウントの三社であり、今後の3週間プレミアムVOD開始はディズニーに買収されたフ

表 1-9 ユニバーサルのリリースウィンドウ

Table with columns: 年, 年平均, 1Q, 2Q, 3Q, 4Q. Rows from 1997 to 2017 showing quarterly release window counts for Universal.

ックスを除外した二社になるのではとの見方が強い。

作品の興行収入別に集計したリリースウィンドウの動向を図3に示しているが、興行収入が\$50ミリオンドル未満の作品では50日前後でDVDリリースに走っており制作資金回収の為に必死であることがう

表 2-9 ユニバーサルのリリース予告

Table with columns: 年, 年平均, 1Q, 2Q, 3Q, 4Q. Rows from 1997 to 2017 showing quarterly release window forecasts for Universal.

かがえる。

昨年度の実績でも興収\$100ミリオン以上の作品では平均105日のリリースウィンドウが、興収\$100~\$50ミリオンでは102日、\$50~\$25ミリオンでは53日、\$25ミリオン未満の失敗作では51日と期間が半減しており、運転資金確保のために営業部門の奮闘ぶりがうかがえる結果である。

表5-1と5-2には昨年度の興行収入上位25作品と、本年8月末での興行収入上位25作品を示している。昨年度の各スタジオ配給作品の収支バランスについては、あらためて解析結果を報告させて頂くが、リリースウィンドウ集計についても来年以降はネット視聴でのリリースウィンドウ動向に置き換わりそうである。

冒頭で紹介したパラマウント合意の見直しについては、年内に始まる関係業界からの意見聴取を踏まえてどのような規制緩和が計られるのか大いに注目されるところで有る。ハリウッドスタジオによる直営映画館については、一般映画館での封切り前に数週間から数ヶ月間独占上映を行って話題を独占したいと考えるのは当然であり、反トラスト法の視点から考えて資金を投じて制作した映画の上映や流通については、一定の市場にたいする独占的地位を認めべきと考えられる。パラマウント合意での裁定が下されたころには、まだ制作もされていない映画や、映画館関係者が試写も見ていない作品を強制的にパッケージとして配給契約を結ばされた等の明らかに不平等な

表 1-10 ワーナーブラザーズのリリースウィンドウ

Table with columns: 年, 年平均, 1Q, 2Q, 3Q, 4Q. Rows from 1997 to 2017 showing quarterly release window counts for Warner Bros.

表 2-10 ワーナーブラザーズのリリース予告

Table with columns: 年, 年平均, 1Q, 2Q, 3Q, 4Q. Rows from 1997 to 2017 showing quarterly release window forecasts for Warner Bros.

表 3 2017年度米国興行成績上位25作品

Table with columns: ランク, 作品名, 配給, 総売上, 最大スクリーン数, 開演週興収, 初回スクリーン数. Lists top 25 US box office hits in 2017.

表 4 2018年8月末での米国興行成績上位25作品

Table with columns: Rank, 作品名, 配給, 総売上, 最大スクリーン数, 開演週興収, 初回スクリーン数. Lists top 25 US box office hits as of August 2018.

BV: ブエナビスタ (ディズニー作品配給会社), WB: ワーナーブラザーズ Sony: ソニーピクチャーズ Uni: ユニバーサル

BV: ブエナビスタ (ディズニー作品配給会社), WB: ワーナーブラザーズ Sony: ソニーピクチャーズ Par: パラマウント

